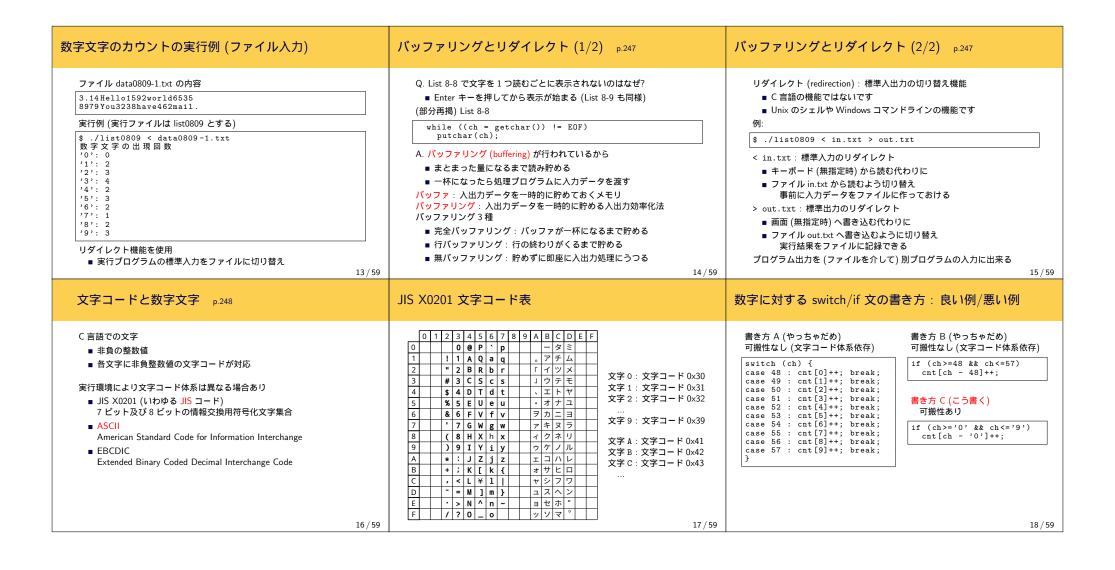
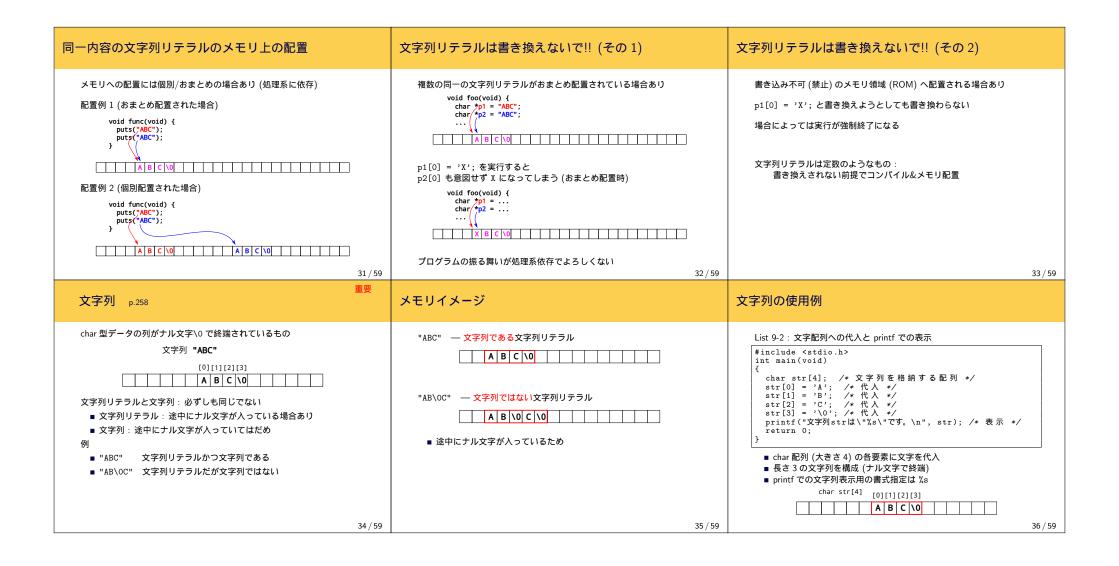
#05 文字列の基本 2022 年度 / プログラミング及び実習 III  角川裕次		もくじ	今回 (#05) の内容
■ getchar() 関数 ■ EOF ■ 文字の拡張表記 ■ 文字列、文字列リテラル ■ 文字列、文字列リテラルは書き換え不可 ■ ナル文字 '\0' ■ ナル文字 '\0' ■ ナル文字による文字列の終端 ■ printf での %s 書式指定 ■ 空文字列	文字列の基本 2022 年度 / プログラミング及び実習 III	_	   第7回:文字コードと制御文字
■ getchar() 関数 ■ EOF ■ 文字の拡張表記 ■ 文字列、文字列リテラル ■ 文字列リテラルは書き換え不可 ■ ナル文字 '\0' ■ ナル文字による文字列の終端 ■ printf での %s 書式指定 ■ 空文字列		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	3/59
■ scant, ハッファオーハーラン, コンヒューダウイルス ■ gets を使っては駄目. fgets を使う.  4/59	■ EOF  ■ 文字の拡張表記  ■ 文字列, 文字列リテラル  ■ 文字列リテラルは書き換え不可  ■ ナル文字 '\0'  ■ ナル文字による文字列の終端  ■ printf での %s 書式指定  ■ 空文字列  ■ scanf, パッファオーパーラン, コンピュータウイルス  ■ gets を使っては駄目. fgets を使う.	実習内容と課題内容は講義途中に提示します (作成したファイル類は manaba に提出)	第 8-5 節 入出力と文字

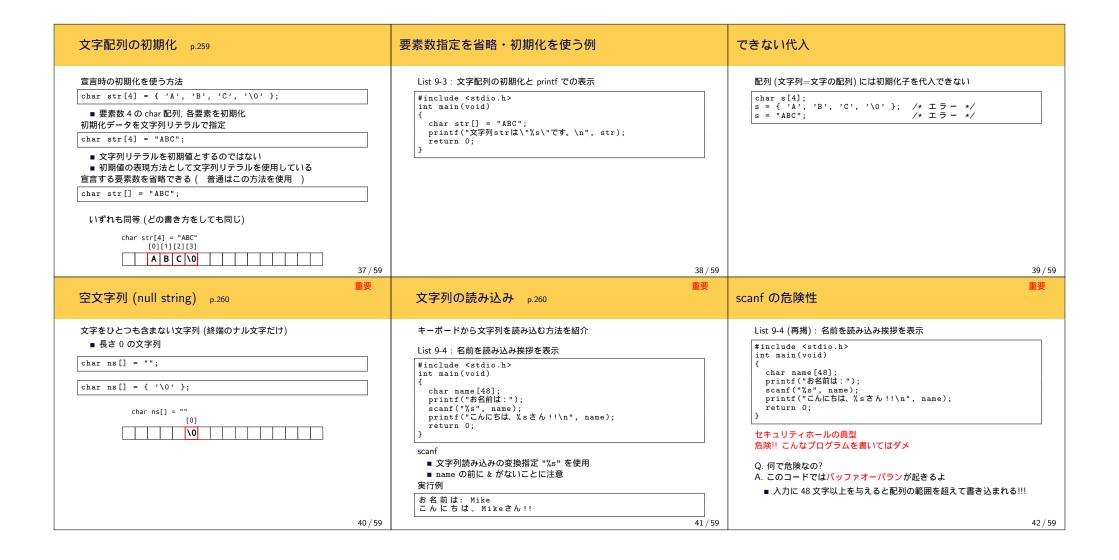
## 重要 getchar 関数と EOF p.244 EOF の発生タイミング 入力から出力へのコピー p.245 入力元がファイルの場合: List 8-8 (部分) int getchar(void) ファイルの終わりで発生 while ((ch = getchar()) != EOF) putchar(ch); 標準入力より1文字を入力して返す 入力元がキーボードの場合: ■ 入力の終了または読み込みエラー時は EOF を返す Ctrl-D 押下で EOF 発生 (WSL/Linux/macOS/Unix 系 の場合) EOF (オブジェクト形式のマクロ) ■ コントロールキーを押しながら D を押す 1 (ch = getchar()) getchar 関数を用いて標準入力より 1 文字を読む 注意: Ctrl-Z ではない ■ ファイル終端を表す (EOF: End Of File) 読んだ文字を変数 ch に代入 ■ Ctrl-Z は「サスペンド」 ■ 負の値 この式の値は代入した値 ■ 実行中のプログラムを一時中断してシェルに戻る 2 while (... != EOF) List 8-8 (部分):標準入力から標準出力へコピー ■ そのプログラムはまだ実行中(終了していない) 代入した値が EOF 文字 (ファイル終端) なら while 文を終了 int main(void) ■ 元に戻るには fg コマンド EOF 文字でなければ以下を実行 3 読んだ文字 (変数 ch に保持) を標準出力へ int ch; 生 Winodows の場合: Ctrl-Z 押下で EOF 発生 while ((ch = getchar()) != EOF) putchar(ch); return 0: 7 / 59 8 / 59 9/59 数字文字のカウントの実行例 (キーボード入力) 数字文字のカウント(つづき) 数字文字のカウント p.246 ファイル (標準入力) から次々と文字を読み各数字の出現回数をカウント 実行例 List 8-9 (部分; つづき; 表示部) List 8-9 (部分: 読み込み&勘定部) 3.14Hello1592world6535 int main(void) puts("数字文字の出現回数"); 8979You3238have462mail. for (int i = 0; i < 10; i++) [Ctrl-D] 数字文字の出現回数 printf("'%d': %d\n", i, cnt[i]); int cnt[10] = {0}; /\* 数字文字の出現回数 \*/ 00:0 while ((ch = getchar()) != EOF) { 11:2 switch (ch) { 22:3 case '0' : cnt[0]++; break; case '1' : cnt[1]++: break; 3:4 4': 2 case '2' : cnt[2]++; break; ,5,: 3 ,<sub>6</sub>,: 2 case '3' : cnt[3]++; break; 77:1 case '4' : cnt[4]++; break; case '5' : cnt[5]++; break; '8': 2 case '6' : cnt[6]++; break; 9': 3 case '7' : cnt[7]++; break; case '8' : cnt[8]++; break; case '9' : cnt[9]++; break; } } -<del>10</del>1/59 11/59 12 / 59

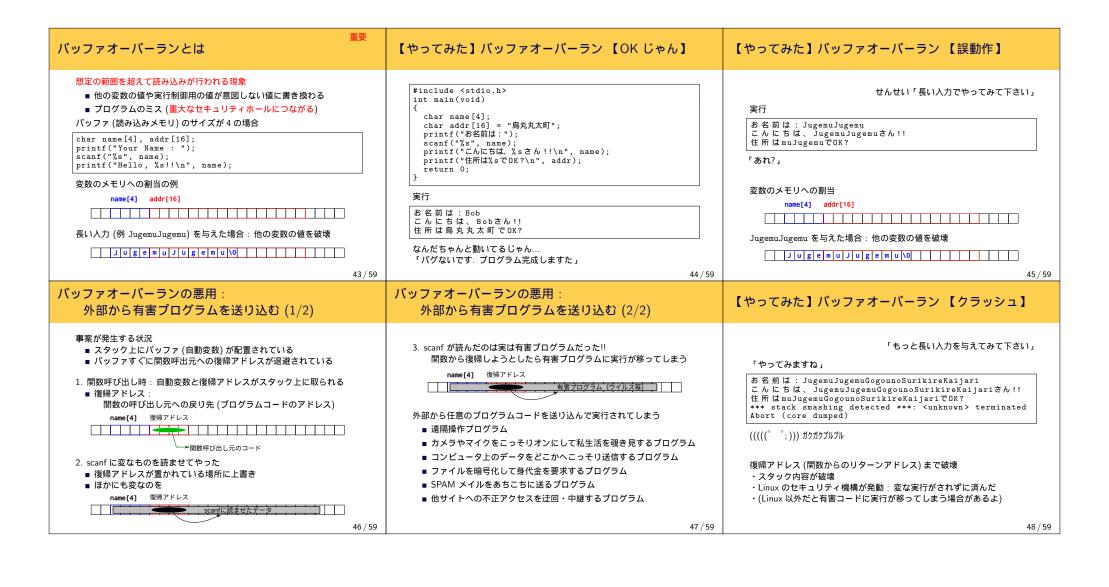


## Q&A:数字に対する switch/if 文の書き方 C言語における数字に対応する整数 拡張表記 p.250 数字 '0', '1', '2', ..., '9' に対応する整数は1づつ増えてゆく 文字列や文字をソースコードで表す方法 文字コード表に書いてるんだから ■ 文法上の制約で直接書けない文字も書けるように ■ C 言語の規約 if $(ch \ge 48 \&\& ch \le 57)$ ... ■ キーボードから直接入力できない文字も書けるように でいいのでは? ■ 文字コード体系に関わらず '5' - '0' は必ず 5 になる List 8-11 (数字カウントの別実装) Q. 文字, はどうやってソースコードに書く? ch='''; で OK? どの文字コード体系を使っているか A. それはエラーになるよ. ch='\''; としてね #include <stdio.h> がそもそも事前に分からんのです. int main(void) 文字列リテラルでの表記 めんどうです int cnt[10] = {0}; /\* 数字文字の出現回数 \*/ 二重引用符を文字列の前後に書く while ((ch = getchar()) != EOF) { if (ch >= '0' && ch <= '9') ■ 二重引用符:拡張表記 \"で表す 48 と '0' の違いだけなので労力は変わらないです. cnt[ch - '0']++; ■ 単一引用符: , または拡張表記 \, で表す ちょっとのことで可搬性あがるよ. puts("数字文字の出現回数"); ■ 他にもあり for (int i = 0; i < 10; i++) めんどうです printf("'%d': %d\n", i, cnt[i]); 使用例 return 0: ■ char \*p = "ABC"; プロフェッショナルはそうするものです printf("Say \"Hello!\" to %s\n", who); 21 / 59 拡張表記の一般的な規則(つづき) 拡張表記 (つづき) 拡張表記の一般的な規則 単純拡張文字 単純拡張文字 (つづき; 制御文字) 文字定数での表記 \a 警報 (alert) ベルまたは画面フラッシュ ■ バックスラッシュを前置して1文字を表す記法 クオート , を文字の前後に書く \b 交代 (backspace) カーソルを1文字前に移動 ■ 制御文字, 引用符など ■ 単一引用符: , で表す \f 書式送り (formfeed) 改ページしてページ先頭へ ∖∖ 逆斜線文字 ∖ (バックスラッシュ) \n 改行 (newline, LF) 改行して行頭へ ■ 二重引用符: "または 拡張表記 \" で表す \? 疑問符? \r 復帰 (carrige return, CR) 行頭へ ■ 他にもあり \' 単一引用符' \t 水平タブ (horizontal tab) 次の水平タブ位置へ \" 二重引用符 " \v 垂直タブ (vertical tab) 次の垂首タブ位置へ 使用例 ■ 例: '\\' ■ 例: "Hello world\n" char ch = 'A'; ■ 例: "Say \"Hello!\"" char ch\_quote = '\'; バックスラッシュ:文字 \ プログラミング環境により円記号 ¥ の場合あり 22 / 59 23 / 59 24 / 59

拡張表記 (つづき)		文字列:理解のポイント
16 進拡張表記   xhh hh は任意の桁数の 16 進数 16 進数で hh の値を持つ文字   例: '\x31' (10 進数では 49)   8 進拡張表記   looo oooは 1 から 3 桁の 8 進数 8 進数で ooo の値を持つ文字   例: '\061' (10 進数では 49)	第 9-1 節 文字列とは	メモリ上にどうデータが配置されるのかを完全に理解する 文字列の理解にはこれが必須 ソースコードの字面だけであれこれ想像してもたいてい間違える
25 / 59	26 / 59	27 / 59
重要 文字列リテラル p.256	文字列リテラルの大きさ p.256	文字列リテラルの生存期間と記憶域
文字の並びを二重引用符""で囲んだもの  ■ "ABC"  ■ "Say \"Hello\""  ■ 定数のようなもの  ナル文字 (null character) が末尾に付加される  例 1: 文字列リテラル "123"  [1 2 3 \ 0]  例 2: 文字列リテラル "AB\tC"  [A B \tlc\0]  例 3: 文字列リテラル "abc\0def"  [a   b   c   vo  d   e   f   vo   例 4: 文字列リテラル "" (空文字列)	文字列リテラルの大きさ = 文字数 + 1 ■ +1 は末尾に付加されるナル文字 1 つぶん ■ sizeof 演算子で文字列リテラルの大きさが得られる  例 1: sizeof("123") = 4	静的記憶域期間: プログラム実行から終了までずっと存在  void func(void) {   puts("ABCD");   puts("ABCD"); }  これはあまり気にしなくても良い
28 / 59	29 / 59	30 / 59







正しい scanf の使い方	scanf による文字列の入力での注意	ふだんから気をつけてプログラムを書く
	scanf 関数の仕様: スペース文字は文字列の区切りになる 先程のプログラムを実行するとこうなる  お名前は: Bill Brown こんにちは、Billさん!!  Bill がひとつの文字列となって scanf("%47s", name) で読まれる ■ Brown は読まれない  scanf 関数はよく調べて使おう ■ 文字列の扱いはけっこう複雑 ■ パッファオーバーランに注意	scanf() は危なげなので要注意 ■ 読み込み幅を必ず明示的に指定する  絶対に使ってはならない関数: gets() ■ 代わりに fgets() を使う  詳しくはたとえば以下を参照 「パッファオーパーラン ~ その 1・こうして起こる~」, セキュア・プログラミング講座 C/C++ 言語編, https://www.ipa.go.jp/security/awareness/vendor/programmingv1/b06_01.html, 情報処理推進機構IPA, (2020/10/07 閲覧).  「パッファオーパーラン ~ その 2・「危険な関数たち」~」, セキュア・プログラミング講座 C/C++ 言語編, https://www.ipa.go.jp/security/awareness/vendor/programmingv1/b06_02.html, 情報処理推進機構IPA, (2020/10/07 閲覧).
文字列を書式化して表示 p.261  printf 関数での文字列表示: いろいろな書式制御が可能  List 9-5 (主要部)  Char str[] = "12345"; printf("%s\n", str); /* そのまま */ printf("%s\n", str); /* 最低 3 桁 */ printf("%as\n", str); /* 最低 8 桁で右よせ */ printf("%-8s\n", str); /* 最低 8 桁で左よせ */ 出力 (「」の場所で改行)	### printf での文字列表示の書式指定    最小フィールド幅	おわり
12345 123 12345 12345 12345	■ 例: %9.6s (精度は6) 変換指定子 ■ s で文字列の表示を指定 ■ 例: %9.6s	3/59 54/5

番外編の課題:シーザー暗号 (例)	番外編の課題:シーザー暗号 (例)	番外編の課題:シーザー暗号 (方法説明と課題内容)
暗号文  FQNHJ BFX GJLNSSNSL YT LJY AJWD YNWJI TK XNYYNSL GD MJW XNXYJW TS YMJ GFSP, FSI TK MFANSL STYMNSL YT IT: TSHJ TW YBNHJ XMJ MFI UJJUJI NSYT YMJ GTTP MJW XNXYJW BFX WJFINSL, GZY NY MFI ST UNHYZWJX TW HTSAJWXFYNTSX NS NY, 'FSI BMFY NX YMJ ZXJ TK F GTTP,' YMTZLMY FQNHJ 'BNYMTZY UNHYZWJX TW HTSAJWXFYNTS?'	解読結果 (平文)  ALICE WAS BEGINNING TO GET VERY TIRED OF SITTING BY HER SISTER ON THE BANK, AND OF HAVING NOTHING TO DO: ONCE OR TWICE SHE HAD PEEPED INTO THE BOOK HER SISTER WAS READING, BUT IT HAD NO PICTURES OR CONVERSATIONS IN IT, 'AND WHAT IS THE USE OF A BOOK,' THOUGHT ALICE 'WITHOUT PICTURES OR CONVERSATION?'  (Lewis Carroll, "ALICE'S ADVENTURES IN WONDERLAND")	シーザー暗号:以下の規則に基づく         ■ 英文の文章を対象;アルファベットには大文字のみを使用         ■ 暗号化の方法:アルファベットの各文字を5つ後ろへずらす         ■ A F, B G, C H,, U Z, V A,, Z E         平文 H E L L O W O R L D         暗号文 M J Q Q T B T W Q I         ■ アルファベット以外の文字(数字や記号類)はそのまま         ■ 解読方法:上記の逆         用語:         ■ 平文(plain text):元の文         ■ 暗号文(cipher text):暗号化された文         課題内容:以下の2つのプログラムを作成せよ         1.任意に与えられる平文を暗号化するプログラム         2.任意に与えられる暗号文を解読するプログラム
55/	59 56/59	57 / 59
番外編の課題:シーザー暗号 / 拡張 (1) 	■ 番外編の課題: シーザー暗号 / 拡張 (2) ■	
先述のシーザー暗号: ずらす文字は5に限定 今回:5以外の値の場合でも暗号化したい 課題内容:以下の2つのプログラムを作成せよ ■ ずらす値を実行時に任意に指定可能とすること ■1以上26以下 1.任意に与えられる平文を暗号化するプログラム	拡張課題 (1): シーザー暗号での文字をずらす値を指定した 課題内容: ずらす文字の値を自動的に推測するプログラムの作成 ■ 与えられるのは暗号文のみ ■ 何文字文ずらされているか分からない ■ ずらしている値を自動で判別して解読文を表示	

58 / 59

2. 任意に与えられる暗号文を解読するプログラム

59 / 59